

市民活動・協働応援制度に係るご意見等について

※本資料は、令和7年9月に各委員からいただいたご意見をまとめたものです。

1. 審査（公開プレゼンテーションを含む）に係る意見

| No | ご意見 | 対応の方針（案） |
|-----|---|---|
| (1) | 申請者の負担や申請難易度を下げ るために、スタートアップコースに ついては公開プレゼンを行わないこ とを今後の検討事項とできないか。 | 今回の諮問事項検討においては、新 たな補助制度の検討と並行して現 制度の見直しも可能としている。 スタートアップコースを書類審査 のみとする場合、申請のハードル が下がるが、一方で、活動に慣 れていない団体だからこそプレ ゼン等で直接委員の助言を聞く 貴重な機会でもあるものとも考 えられる。今後の協議を通じて 検討していきたい。 |
| (2) | 2次元バーコードなどで参加団 体を誘引し、動画やパワーポイン トでファーストプレゼンを行う。 その後、事業計画をプレゼンし 投資家が出資をするという過去 の番組「マネーの虎」形式でや って見たらどうか。 | 動画などの媒体を必須とすると、 排除されてしまう層が一定出て しまう恐れがある。また、1団 体にかかる時間が多くなるた め、審査員や団体の負担が大 きく、時間配分の面でも実施 は難しいと考える。 |
| (3) | 発表団体は自分のプレゼンが 終了すると帰る団体が多い。プ レゼン後の意見交換会が必要。 | 第一次審査通過の際のお知らせ で、他団体の発表も聞いていた だくお願いは可能だと考える。 意見交換会について、プレゼン 審査当日は書類審査もあり委 員、事務局、UMECO関係者全 てが出席する。その間お待ち いただくことは難しい。アンケ ートを用いて交流希望を募る という方法はあるが、事業報 告会で同様の取組を行っている。 |
| (4) | プレゼン、報告会の周知が足 りない。UMECOでのポスター 掲示や、各団体へ一斉にメール 配信するなどの取組が必要。 | UMECO指定管理者と協議し 可能な周知方法は実施して いく。また、市のX（エック ス）、デジタルサイネージ、 FMおだわらの市の情報コー ナーでの案内など、現状行っ ている手法は継続していく。 |

市民活動・協働応援制度に係る改善点

| | | |
|-----|---|---|
| (5) | <p>広報の手法について、キャッチフレーズを一新するなど、表現の見直しを。</p> | <p>適切な手法を検討する。</p> |
| (6) | <p>公開プレゼン時、メモをするようになっているが、短い時間内で文章をまとめることは負担感がある。メモの回収時間についてももう少し考慮できないか。</p> | <p>午後の書類審査に向けて迅速に取りまとめを行う必要があるが、必要なのは、順位付けに必要な各事業の点数である。書類審査の場で補足説明は可能なため、コメントは審査に必要なところのみ可能な範囲で記載をお願いするというかたちで、プレゼン審査時の採点表回収の流れは従来通りの方法としたい。</p> |
| (7) | <p>団体作成のプレゼン資料は、補助金対象事業以外の説明が含まれていることがある。5分で説明できるよう、プレゼン資料の作成について、団体への周知徹底をお願いしたい。</p> | <p>ご指摘のとおり対応する。</p> |
| (8) | <p>5分間で各団体が具体的に最後まで伝えられるよう、経過の3分、4分のカード等を提示するとよいのではないか。また、各団体2名は立ち会うようにし、円滑に進めるとよいのではないか。</p> | <p>現在は終了時間が近づくとベルを鳴らす手法としている。目に入りやすい方法については今後の検討課題としたい。 参加人数については、2人で役割分担を行った方が効率的である旨の案内を行っていく。現在、座席数の都合で上限人数は定めているが、最低人数については、体調面で参加が難しい場合など、さまざまな事情が考えられるため定めていない。</p> |
| (9) | <p>事業内容が大ざっぱ、収支予算書に詳細が書かれていないなど、審査の際に困るケースが散見される。応募の段階でのチェックが重要かと思う。</p> | <p>前回は、応募期間ぎりぎりでの駆け込み応募が散見された。早めに必要書類を提出するよう周知することや、事前相談制度を周知して活用いただくようにし、応募書類の精度を高めていく。</p> |

2. 制度設計（スケジュール、各コースの要件、補助対象経費等）に係る意見

| No | ご意見 | 対応の方針（案） |
|-----|--|--|
| (1) | 補助対象経費について、エビデンス等、資金トレースを明確にすることをしっかり周知した方がよい。 | 事業のおおまかな見込みを記載すればよいと考える団体が多いため、実際に企画提案書通りに事業を行うものということは申し込みの時点でしっかりと確認していく。また、今後、実際に事業を行うなかでの資金使途確認もしっかり行っていく旨の説明もあわせて行っていく。 |
| (2) | 若葉コース、果実コースなど、対象者を限定したコースを設けるべき。補助額は3万円、5万円と低く設定し裾野の掘り起こしを幅広く行うべき。 | 裾野の掘り起こしについては、まさに、今回検討する新たな補助制度の趣旨と同じものである。ただし、対象者の限定については、現状、活動を行う年齢層に偏りがあり、公平に運用ができない可能性があり、慎重な判断が必要である。この点も踏まえ、新しい補助制度や現制度の内容について諮問事項でご協議いただきたい。 |
| (3) | 補助事業が大きなイベント系に偏っている印象。1年前から動くイベントだと補助金が通るかどうかが博打となる。小さなイベントでは交付を待たないと動き出せず、開催時期が絞られてしまうのではないか。 | 申請の段階で企画が十分に練られており、なぜ補助金が必要か明確になっていることで審査通過に近づくと思われる。事前相談や申請の段階で適切な助言ができるように努めていく。 また、イベント事業を行う団体のうち補助金終了後の自立した活動のことについて詰めきれていない団体が存在する。事業継続性の重要性、補助金活用終了後はどの様に活動を続けていくのかのビジョンも初期の段階から確認していく。 |
| (4) | 申請のノウハウ、大きなイベントのノウハウがない若い団体が応募する場合、簡易な申請と簡易な審査、迅速な交付が必要では。 | 今期の諮問事項となっている新たな補助制度の検討の際にぜひご意見をいただき、活用しやすい制度にしていきたい。 |

市民活動・協働応援制度に係る改善点

| | | |
|------------|---|---|
| <p>(5)</p> | <p>市民活動は有志の集まりのため、ベンチャーが出資を受けるような「費用対効果」や「将来性」を厳密に求められると厳しい面がある。それぞれの参加の都合に合わせた思いがあるなかで、目的や将来像などをまとめて言語化することは難しい。そのため、細かい書類、厳しい審査、長い審査期間の後、不通過となった場合、二度と利用しないというグループもいるのではないかな。</p> | <p>補助金は公金であるため、費用対効果と継続性、さらに公益性などは必要な視点であると考え。この点を経験の少ない若い団体がクリアできるよう、説明会や補助金活用に関する講座の実施、事前相談の機会を設けている。これらの取組は引き続き実施していく。</p> <p>必要書類については、企画提案と収支予算書の作成、団体の構成についてが主であり、複雑な資料の作成は求めている。しかしながらプレゼン審査が厳しいというご意見は聞かれるため、今期の諮問事項である新たな補助制度の創設でこの意識が解消できると期待している。</p> <p>また、不通過団体に対しては、結果の通知だけでなく、委員の皆様から今後の活動に向けたご意見を添付しており、クリアにすべき課題点がよくわかったというお声もいただいている。次回の申請に向けて助言を必要とする団体に対しては、UMECO指定管理者へつなぐなどのフォロー体制を継続していく。</p> |
| <p>(6)</p> | <p>All or Nothing では厳しい。応募や審査にも時間をかけている。一部補助するような仕組みがあっても良いのでは。</p> | <p>現状も事業内容によっては金額査定を行っており、一部補助という事例が存在する制度となっている。</p> |
| <p>(7)</p> | <p>応募受付が11月1日からで、説明会が10月27日では遅い。1週間早めたらどうか。</p> | <p>今回の募集分の説明会等は実施日を早めた。手引き配布後間もないタイミングでの開催とならないよう周知期間を設けた後の説明会実施となるよう努めていく。</p> |
| <p>(8)</p> | <p>市民タイアップコースについて、「他主体」についての提出資料の内容が薄いように見受けられる。「他主体」についても団体として一定の基準が必要</p> | <p>他主体の会則等の提出については、ご指摘のとおりであるため、次回の応募の際から提出を求めていく。</p> <p>他主体となれる団体等の一定の条件につ</p> |

市民活動・協働応援制度に係る改善点

| | | |
|------|--|--|
| | ではないか。補助金獲得のためだけに「他主体」を立ち上げるようなことのないよう、「他主体」についても団体の会則等提出を求めているかどうか。 | いては、申請団体同様、3人以上で構成された団体とすることや、設立後一定の期間を経た団体とするなど、手法は様々あると思うが、現制度の見直しという視点でご意見をいただき、委員会上で検討をしていきたい。 |
| (9) | 事業報告会が毎年6月に実施されているが、今後本制度への応募を検討する団体の参加を期待するのであれば、もう少し開催時期を遅らせることはできないか。 | 事業報告会は補助金を活用した団体が、内容や成果を市民等に公開し、事業の透明性を高めるとともに、市民活動推進委員会による評価や情報交換を行い、市民活動の更なる発展を促進することを目的に開催している。今後応募する団体の参考ともなるため、応募予定の団体の参加を促す広報を行っているが、開催時期については補助金事業が終了した後、報告資料作成等の時間を設け、あまり時間を空けずに実施すべきと考える。 |
| (10) | ステップアップコース以降を目指す団体はこの制度をある程度認識できていると思われるが、スタートアップコースを目指す団体やこれから取り組もうとされている方にとって、スケジュールの余裕がないように思われるため、資金獲得講座を夏頃に設定してもよいのではないか。 | 補助金に関する講座は、昨年度から説明会と同日に講座を実施している。ご指摘のとおり、今の補助金制度が活動資金獲得の一手段であることを早めに周知できる機会が必要だと考える。講座の早期開催、ホームページでの早めの周知など様々な手法の実現可否について、UMECO指定管理者と検討していく。 |

3. その他制度全般に係る意見

| No | ご意見 | 対応の方針（案） |
|-----|--|--|
| (1) | 本制度に関する、行政のホームページへの掲載内容が薄いように感じる。過去に補助金を獲得した団体は常に市民が確認できるようにすべき。 | ご指摘の内容について検討していく。レイアウトについては他市を参考にしながら改善に努めていく。 |

市民活動・協働応援制度に係る改善点

| | | |
|-----|--|---|
| (2) | <p>敷居が高く取り組みづらい印象があるとしたら、スタートアップコースのみ新たに取り組む事業の内容と団体名のみで電話やネットで申し込み可とし、その後UMECO指定管理者が面談し、アドバイスを受けながら、必要期日までに書類をまとめ提出するのも良いのではないか。</p> | <p>スタートアップコースも事前相談を必須とすることで敷居を低くできるのではないかと考える。制度の見直しに係る内容のため、新たな補助制度の検討の際にあわせて委員会上でご検討いただきたい。</p> |
| (3) | <p>以前からの懸案であるが、公開プレゼンと報告会に一般の参加者（行政職員を含む）を増加させる取組が必要。</p> | <p>周知開始時期の見直し、各参加団体からも周囲に参加を促してもらい、行政は庁内掲示板（職員が見られる電子掲示板）などで実施案内を早期に掲示し、参加を促していく。</p> |
| (4) | <p>現制度の課題として、「事前相談期限など申請タイミングが分かりにくい」「市担当課と民間団体とのやり取りでUMECOが介在する仕組みが分かりにくい」とある。</p> | <p>本制度は、市とUMECOとの共催となっている。市とUMECOの役割については手引きやホームページの説明冒頭に記載するなど、申請者が混乱しないような表記に修正を検討する。</p> |
| (5) | <p>現在、応募に関わっているのは事業協会の職員1人だけであり、これでは市民は不安に思われることが多いと思う。UMECOは共同事業体なので、職員の誰もが相談に応じ、対応すればもっと多くの団体が相談しやすくなるのではないか。「申請方法や提出書類が複雑」との意見もあるが、団体にとってどの部分が複雑なのかを知り、申請しやすいよう改善すべき。</p> | <p>UMECOに連絡しても担当者不在でなかなか話ができないという声は実際に聞かれている。UMECO指定管理者に対しては、役割分担または複数職員で対応可能な体制を事業協会と市民活動を支える会の両方で構築するよう指摘をしているところである。ご意見のとおり、市民がいつでも相談できる環境は申請のハードルを下げる非常に重要な取組であると考えている。</p> |
| (6) | <p>「プレゼンや報告会への参加が必要なことが利用をためらう原因となっている」との課題、これは他団体の報告を聞き今後の活動の糸口になるので必要と思われる。団体にその重要性が理解されていないように感じる。</p> | <p>プレゼンや報告会は発表を見た団体にとって重要な情報源になるだけでなく、発表団体にとっても他の団体へのアピールできる絶好の場である。また、審査員の意見をその場で聞くことができる貴重な場であり、重要な仕組みであると考えている。</p> |

市民活動・協働応援制度に係る改善点

| | | |
|-----|--|--|
| | | だ、コースによってはプレゼン審査を省略し申請をしやすい環境が必要との委員意見もあることから、新たな補助制度の創設とあわせて現制度の見直しの協議も委員会上でお願いできればと思う。 |
| (7) | 年齢層を絞った募集コースについて、中学校・高等学校へのポスター掲示を行うことや、年齢層の高い団体へは応募に前向きなるようなキャッチフレーズを設定すべき。 | 前述のとおり、年齢層別の応募コースの検討は公平性の観点から実現は難しいと考えるが、市やUMECO、公共施設でのポスター掲示など可能な取組は今後行っていく。 |
| (8) | 市民活動をしようとする団体が他の団体の内容を把握しないのはいかなものか。交流会の場も設定すべき。オンラインの良さはあるが、基本、対面での方式をすすめる。 | 他の団体の活動状況は、特にスタートアップコースの団体にとって非常に参考になるものと思われる。交流会の在り方については次の②の議題で事務局案を提示する。 |

4. 市民×行政協働コースについて

| No | ご意見 | 対応の方針（案） |
|-----|--|--|
| (1) | 今回の応募団体から「協働事業についてよくわかっていない」との発言があった。手引きをよりわかりやすくする必要はある。 表紙の印象をやわらかく手に取りやすくするとよいのではないか。協働相手をイメージする、手と手を取り合う絵を添えるとよいのではないか。 | 令和9年度募集分から、表紙の部分で、行政との協働事業であること記載し、補助金コースとは違うことが分かるよう工夫するなど、可能な修正は順次行っていく。今後については、他市の事例研究も行いつつ、補助金コースとの差別化とより分かりやすい手引きとなるようにする。 |
| (2) | 補助金コースで事業を実施した団体が協働事業に積極的に応募するような工夫が必要。また、以前からの懸案であるが、行政提案を増加させる取り組みが必要。 | 市民×行政コラボアップコースを申し込んだ団体に対しては、行く行くの展開として本コースがある旨、早めに案内を行っている。行政側にもあわせて個別に案内を行っている。行政提案については全庁に対象事業の有無について照会を行っており、引き続き制度周知を図り、行政提案が増えるよう努めていく。 |

市民活動・協働応援制度に係る改善点

| | | |
|-----|--|--|
| (3) | <p>計画の実行性、効果度合い、事業自体が持続可能か否か。利益という概念をどのようにとらえているのか確認が必要。</p> | <p>本コースは発展的な事業の実施を目的としているため、ご指摘の点は非常に重要である。団体には相談時点から本コースの意義を丁寧に説明するとともに、計画段階から持続可能な事業になるような組み立てを促していく。</p> |
| (4) | <p>このコースは補助金コースよりハードルが高く、市民活動団体側の負担も大きく、非常に強い覚悟と労力が求められることから、応募前に市と団体との十分な内容のすり合わせを行い、市からも積極的な提案が必要である。</p> | <p>応募する際は、必ず書類提出前に団体と市所管課との意見交換会を実施し、認識のすり合わせを行っている。そのために事前相談を必須としている。</p> <p>ただし、市の事業との方向性が異なるケースが多い。その場合は別の所管との調整も行い、それでも協働相手が見つからない場合は、補助金ステップアップコースへの案内を行っている。</p> |
| (5) | <p>このコースは市との施策と絡む非常に重要なコースと考える。市民の強い思いに対し、事前に担当課と話し合い、行政と対等な立場で役割分担をし、課題解決することが望ましい。</p> | |
| (6) | <p>お互いの労力が無駄にならないような事前相談になっていると、より市民活動団体の可能性が広がっているように思える。</p> <p>審査前に合格に至らない不十分な点や、別の方法で実現したほうが良さそうだった点が見えてくると思われる。</p> | <p>審査は市民活動推進委員会が行うため、行政での審査とまらないよう注意しながら、活動規模や内容に応じた助言や申請書類のチェック、適切なコースの案内は行っている。引き続き、協働事業実施にあたっての適切な助言を行っていく。</p> |
| (7) | <p>とりあえず出してみても不合格だと、「せっかく良いことをしているのに」となってしまう。</p> | <p>とりあえず出すということにならないよう助言等を強化していく。万が一不合格になったとしても、次に向けたアドバイスや他コースの案内は必ず行っている。</p> |
| (8) | <p>SNS等を活用し、各団体がアピールしたり、市の所管がアピールしたりすることによって、マッチングの機会を得ることができ、協働につながるので</p> | <p>各団体の存在を把握してもらうため、庁内電子掲示板において団体一覧の情報を掲載することを検討する。</p> <p>団体と市のマッチングのためには、行政</p> |

市民活動・協働応援制度に係る改善点

| | | |
|--|--------------|---|
| | <p>はないか。</p> | <p>側の求めている内容の発信は重要であると考えている。行政提案を増やす方法についてあらためて検討をしていきたい。</p> |
|--|--------------|---|